

最近の国内活動

通常活動の理事会は第 15 期（2021 年 5 月～2024 年 5 月）で 12 回、第 16 期（2024 年 5 月～2027 年 5 月）では 2025 年 3 月時点で 3 回開催された。特に第 15 期では 2022 年に京都で開催された XXth CIGR World Congress 2022 が大きな活動であった。第 16 期では渡邊会長のもと 2020 年から 2023 年の COVID-19 のパンデミックの影響からの脱却、本会の運営も含め、会則等見直しを実施し、会の立て直しを目指している。また、第 16 期では 40 周年記念事業を実施する。

2014 年に創設した農業工学の分野で優れた研究あるいは技術開発に多大な業績を上げた者に授与する日本農業工学会賞の顕彰事業は本会の重要な事業であり、これを継続的に毎年授与し、2024 年の現在まで 82 名の方が参加学協会から推薦され顕彰選考委員会の審査を経て本賞を授与された。1985 年から 2021 年まで日本農業工学会シンポジウムを計 36 回開催してきたが、年 1 回開催とした定期開催制度を終了し、より効果的な形式での実施を検討している。

(1) フェロー授与

毎年度のフェロー選考についてはこの間の 5 年間に各学協会から推薦された 134 名の方にフェローの称号を授与した。授賞者は農業工学の各学協会の領域で長年にわたり活躍された方々であり、その功績を称える機会の場を提供できることは本会の重要な役割となっている。

(2) 日本農業工学会賞授与

農業工学分野に顕著な研究あるいは技術開発に多大な業績を上げた方々に日本農業工学会賞を授与している。受賞者講演会では本分野の幅広い研究内容と社会への貢献をアピールする場となっている。この 5 年間で 45 名の方に授与された。

(3) 学術会議 CIGR 分科会との連携

CIGR 各種イベントや会議への協力や CIGR 事務局活動への協力を行い、本会及び加盟学協会の国際活動を支援した。特に 2022 年に京都での XXth CIGR World Congress 2022 では盛況に開催を成功させた。

(4) 40 周年記念事業

40 周年記念事業として以下を計画、実施している。

1) ホームページのリニューアル

現在のホームページをより閲覧しやすいフォームへの変更、英語のページ等の作成を計画している。

2) 40 周年記念特設ページ

35 周年までは紙媒体の記念刊行を実施してきたが、40 周年では特設ページを開設することとした。

(副会長 池口厚男)